

## 「復興農学会」幹事会（第1回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2023年4月10日（月）18時00分～19時00分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 石井 秀樹（福島大学）、内田 修司（福島工業高等専門学校）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（東京大学）、新田 洋司（福島大学）、溝口 勝（東京大学）、横山 正（福島大学）  
（敬称略）

### 議事録

#### 1. 幹事・監事選出選挙の結果について（新田）

新田 選挙管理委員長より、2023～2024年度の幹事・監事選出選挙（投票：3月19日（日）～3月31日（金）、開票：4月1日（土））の開票結果と、選出された候補者の就任の意向が確認されたことが報告された。また、「復興農学会 会則」、「復興農学会 幹事および監事選考要領」、ならびに前期までの役員について確認された。

幹事：石井 秀樹（福島大学）、内田 修司（福島工業高等専門学校）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（東京大学）、新田 洋司（福島大学）、溝口 勝（東京大学）、横山 正（福島大学）

監事：内田 修司（福島工業高等専門学校）、生源寺 真一（福島大学）

#### 2. 会長の選出について（新田）

新田より、会則第6条にもとづいて会長（1名）を選出したいとの提案があった。審議の結果、Zoom上で無記名投票により選出することとなり、杉野 助教が作成したシステムでただちに実施された。投票、開票の結果、溝口 勝 教授が選出され、就任の意向が確認された。

#### 3. 副会長の選出について（新田）

新田より、会則第6条にもとづいて副会長（若干名）を選出したいとの提案があった。審議の結果、本選出もZoom上での無記名投票で実施することとなり、杉野 助教が作成したシステムでただちに実施された。投票、開票の結果、大川 泰一郎 教授、新田 洋司 教授が選出され、就任の意向が確認された。

#### 4. 幹事の各業務の担当について（新田）

新田より、幹事の業務担当者を決定したいとの提案があった。審議の結果、各業務の主幹者をZoom上での無記名投票で決定し、他の幹事が業務につくこととなった。投票、開票の結果、主任者および担当者が以下のように決定された。

学会誌担当	（主任）横山 正、杉野 弘明
企画担当	（主任）石井 秀樹、内田 修司、黒瀧 秀久
渉外担当	（主任）小倉 振一郎
教育研究資料担当	（主任）佐伯 爽、（杉野 弘明）

#### 5. 会長が必要と認める幹事について（新田）

新田より、「復興農学会 幹事および監事選考要領」第2条にもとづいて、会長が必要と認め幹事会で了承された場合には、選挙で選出される幹事数の1割程度を幹事として追加することができることが説明された。

溝口 教授より被災地の農業復興事業に尽力している大学（明治大学）メンバーを幹事として加えたいと

の提案があり、審議の結果、了承された。後日、溝口 教授が指名することとなった。

#### 6. 幹事長の選出について（溝口）

溝口 教授より、幹事より幹事長を選出したいとの提案があった。審議の結果、新田が選出され、就任の意向が確認された。

#### 7. 幹事会の進め方ならびに「拡大幹事会」の設置について（新田）

新田より、これまで本学会では、「復興知」事業を実施する大学等のメンバーが中心になって事務局会議が設置され、学会発足前から毎月会議を開催し（56回）運用にあたってきたが、今後はそれにかわって幹事会が運用にあたってはどうかとの提案があった。また、幹事会は他学会では評議員会にあたる組織であり、将来は評議員会に移行することが適当ではないか、また、幹事会（将来の評議員会）の開催頻度はこれまでの事務局会議の場合（月1回）ほどでなくてもよいのではないか、との意見もだされた。

審議の結果、幹事会が将来、評議員会に移行することについては異論はなかった。また、幹事会の会議の開催については、被災地（福島県浜通り地域）の農業等の復興状況や、地域や国内・外の関連情報や意見を交換する場が必要であることから、「拡大幹事会」として毎月1回程度開催するのが適当とのこととなり了承された。なお、次回の開催日時については、後日、日程調整をして決定することとなった。

「拡大幹事会」のメンバーとして下記の諸氏の参画が期待されるが、次回までに幹事が検討することとなった。伊藤 央奈 准教授（郡山女子大学）、渋谷 往男 教授（東京農業大学）、菅原 優 教授（東京農業大学）、半杭 真一 准教授（東京農業大学）、安達 俊輔 准教授（東京農工大学）、福島イノベーション・コースト構想推進機構。

#### 8. その他

##### (1) 学会「名誉職」の設置等について

学会長が退任した場合等には、学会が設置した「名誉職」についていただくのが適当ではないかとの意見がだされた。審議の結果、異論はなく、今後、検討することとなった。

##### (2) 役員一覧

本日の幹事会で決定された役員等は以下のとおりである。

2023年4月10日（月）幹事会確認

幹事	会長	溝口 勝（東京大学）	（第6条第1項・第2項）
	副会長	大川 泰一郎（東京農工大学） 新田 洋司（福島大学）	（第6条第1項・第2項）
		（幹事長）新田 洋司（福島大学）	（第6条第1項・第4項）
	学会誌担当	横山 正（福島大学）（主任） 杉野 弘明（東京大学）	機関誌編集
	企画担当	石井 秀樹（福島大学）（主任） 内田 修司（福島工業高等専門学校） 黒瀧 秀久（東京農業大学）	シンポジウム・講演会・研究例会の企画
	渉外担当	小倉 振一郎（東北大学）（主任）	他学会・自治体・会社・団体等との連携
	教育研究資料担当	佐伯 爽（福島大学）（主任） （杉野 弘明（東京大学））	成果・資料の収集・共有化
監事	内田 修司（福島工業高等専門学校） 生源寺 真一（福島大学）	（第6条第1項・第5項）	
事務局員	（今後検討）		
アドバイザーボード	（今後検討）		

以上

今後の予定

・幹事会（第2回）

2023年★月★日（★）★時★分から

## 「復興農学会」幹事会（第2回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2023年5月8日（月）18時00分～18時40分

方法 ZoomによるWeb会議

出席予定者 石井 秀樹（福島大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（東京大学）、新田 洋司（福島大学）、登尾 浩助（明治大学）、溝口 勝（東京大学）、横山 正（福島大学）  
（敬称略）

議事に先立ち会長指名幹事 登尾 浩助 教授よりあいさつがあった。

### 議事録

#### 1. 第1回幹事会の議事録の確認【資料】（新田）

新田より資料にもとづいて、4月10日に開催された第1回幹事会の議事の概要が報告され確認された。

#### 2. 2023～2024年度役員の確認【資料】（新田）

新田より資料にもとづいて、2023～2024年度役員と役割分担について報告され確認された。

#### 3. 幹事会の進め方ならびに「拡大幹事会」の設置について（新田）

新田より、事務局会議、幹事会の位置づけや運用状況等について報告があった。まず、事務局会議は、「復興知」事業を実施する大学等のメンバーが中心になって設置され、本学会発足前から毎月会議を開催して（56回）運用されてきたこと、それにつづいて幹事会は、事務局会議にかわるものとして先月（4月）に第1回が開催されたこと、また他学会では評議員会にあたる組織であり、将来は評議員会への以降が想定されていること等が報告され確認された。

つづいて、新田より、第1回幹事会（4月）で、被災地（福島県浜通り地域）の農業等の復興状況や、地域や国内・外の関連情報や意見を交換する場として、従来の事務局会議構成メンバーを含めた「拡大幹事会」を毎月1回程度開催してはどうかとの意見があったことが報告された。

拡大幹事会等を含む今後の進め方について審議した。その結果、以下の点が了承された。

- ・拡大幹事会は設置せず、広く学会員等の声を聴き意見を交換する「月例会」（仮称）を毎月1回程度開催し、必要によりそれにつづいて幹事会を開催する。
- ・「月例会」は幹事会として予定していた「毎月第1月曜日18時台」の前に開催する。第1回を6月5日（月）、第2回を7月3日（月）とする。
- ・「月例会」の企画・運営は企画担当幹事（石井 准教授（主任）、内田 教授、黒瀧 教授）が担当する。テーマや話題提供者の選考等をし、会を実施する。

#### 4. 会員数の拡大について（新田）

新田より、本学会の会員数について、2023年3月18日現在、会員数は178名（研究者163名、その他15名）であるが、これには過去のシンポジウムに参加しただけの者等が含まれており不確実な数であること、一方、2023年3月14日現在、2022年度会費の納入者は71名（研究者67名、その他4名）であり、確実な会員数と考えられることが報告された。

また、新田より、日本学術会議の協力学術研究団体に申請する要件の1つに、「構成員（個人会員）が100名以上で、その半数以上が研究者であること」があることが報告された。したがって、本学会が日本学術会議に再度申請するためには、現状よりも30名程度以上の会員数の増加が必要であることが報告された。

会員数の拡大について審議された。その結果、事務局（佐伯 研究員）が会員名簿を大学ごとに整理し（会費納入・未納別、など）、各大学に送付して幹事会メンバー等が確認し、未納者等を中心に勧誘活動を実施することとなった。

#### 5. 学会誌「復興農学会誌」の編集・発行状況（横山）

横山 特任教授より、7月発行予定の第3号第2号の編集状況について、現在、原著論文1報が査読中であること、さらに投稿が期待されていること等が報告された。

#### 6. その他

##### (1) 本学会の英語名について（溝口）

溝口 会長より、本学会の英語名（Society of Reconstruction Agriculture）を見直したいとの提案があった。次回以降の幹事会で検討することとなった。

以上

#### 今後の予定

- ・幹事会（第3回） 2023年6月5日（月）18時00分から  
（幹事会は、毎月第1月曜日18時00分から開催（2023年9月まで））

## 「復興農学会」幹事会（第3回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2023年6月5日（月）18時00分～18時18分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 石井 秀樹（福島大学）、内田 修司（福島工業高等専門学校）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（東京大学）、新田 洋司（福島大学）、登尾 浩助（明治大学）、溝口 勝（東京大学）、横山 正（福島大学）  
（敬称略）

### 議事録

#### 1. 会員の入会状況の確認と会員数の拡大について（新田・佐伯）

新田、佐伯 研究員より、事務局（福島大学）で各大学等別に整理した会員等の名簿の概要について報告があった。今後は、幹事が、各大学等別名簿をもとに、会員および個人情報（所属、メールアドレス等）、2023年度の入会について確認するとともに、会員数の拡大のため入会を勧誘することが了承された。幹事は、これらの作業を6月末までに進め、結果を事務局に報告することとなった。

#### 2. 学会誌「復興農学会誌」の編集・発行状況（横山）

編集委員長 横山 特任教授より、7月発行予定の第3号第2号の編集状況について、現在、原著論文1報が査読中であること、3月に開催された研究会・シンポジウムの要旨を掲載する予定であること等が報告された。また、広野町長インタビュー記事について、内田 教授が原稿を整理し、確認したのちに掲載する予定であることが確認された。

また、横山 特任教授より、幹事（学会誌担当） 杉野 弘明 助教に副編集委員長就任の依頼があり、審議の結果、了承された。また、副編集委員長 安達 俊輔 准教授（東京農工大学）に幹事会にオブザーバー参加の依頼があり、審議の結果、了承された。

#### 3. その他

なし

以上

### 今後の予定

- ・月例会（第2回） 2023年7月3日（月）17時00分から
- ・幹事会（第4回） 2023年7月3日（月）18時00分から  
（幹事会は、毎月第1月曜日18時00分から開催（2023年9月まで））

## 「復興農学会」幹事会（第4回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2023年7月3日（月）18時00分～18時45分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 石井 秀樹（福島大学）、内田 修司（福島工業高等専門学校）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（東京大学）、新田 洋司（福島大学）、登尾 浩助（明治大学）、溝口 勝（東京大学）  
（敬称略）

### 議事録

#### 1. 各大学等における会員の確認・入会の状況について（新田・佐伯）

新田より、各大学等において、事務局（福島大学）が整理した会員等の名簿をもとに、会員および個人情報を確認するとともに、2023年度の入会を6月末までに確認することになっていたことが報告された。佐伯 研究員より、2023年度会員について、2022年度会費を支払った会員をもとに退会者および入会者を加えた場合71名となることが報告された。なお、東京農工大学、東京農業大学、福島大学からは確認作業の結果が届いておらず、引き続き、確認作業を進め結果を佐伯 研究員に報告するよう依頼があった。

#### 2. 学会誌「復興農学会誌」の編集・発行状況について（杉野）

杉野 助教より復興農学会誌第3巻第2号（7月発行予定）の編集状況について以下のとおり報告があった。

- ・巻頭言：溝口 会長が執筆中
- ・原著論文（ノート）：1報は受理、1報が審査中で近く受理される見込み。
- ・研究会の要旨集
- ・シンポジウムの概要集：現在、執筆者に確認中
- ・総会記事

#### 3. 本学会の英語表記について（新田・溝口）

新田より去る5月8日に開催された幹事会で、本学会の英語表記を見直してはどうかとの提案があったことが報告された。また、現在は英語表記を下表のように使用していること、「Reconstruction Agriculture」は復興庁が「Reconstruction Agency」であることを参考に付されたこともあわせて報告された。

表記場所	英語表記
日本学術会議 学術研究団体 申込み（2021年2月）	Society of Reconstruction Agriculture
日本農学会 加盟学協会名	〃
「復興農学会誌」での本学会名	〃
「復興農学会誌」名	Journal of Reconstruction Agriculture and Sciences

溝口 会長より、「Reconstruction」は土木の工事や建設のような意味合いが強いが本学会はそうではないこと、むしろ「Resilience」のほうが適当と考えられること、そこで英語表記を「Society of Resilience Agriculture」としてはどうかとの提案があった。また、英語表記や学会名の変更は、他の学会でもしばしばみられることで大きな問題ではないとの発言があった。審議の結果、英語表記を「Society of Resilience Agriculture」とすることが了承された。

なお、英語表記の変更は「復興農学会誌」の次巻第1号（2024年1月）にあわせたいが、総会の開催がその後（2024年3月）に予定されていることから、本年中に会員にメールで審議を依頼し、了承を得て進めることがあわせて了承された。

#### 4. その他

(1) アメリカ土壌科学会 (Soil Science Society of America (SSSA)) 大会の福島県での開催における本学会の共催について (溝口・登尾)

溝口 会長、登尾 教授 (土壌物理学会 会長) より、2025年8月19日から (4日間) の予定で、アメリカ土壌科学会の大会が福島県内 (Jビレッジ) で開催される予定 (参加者80名程度 (見込み)) であり、本学会が共催できないか (費用負担なし) との提案があった。審議の結果了承された。

(2) 新規入会会員の会費納入について (登尾・溝口・佐伯)

登尾 教授、溝口 会長、佐伯 研究員より、明治大学で2名が新規に入会したが、学会ホームページには「初年度会費無料」の記載があるとの報告があった。新田より、会費が入会初年度に無料とする措置は学会発足初年度 (2020年度) にとられたものであり現在は入会初年度から会費を納入する必要があること、入会初年度に会費を納入した会員もあること等が説明された。審議の結果、明治大学の新規入会2名へは、新田より事情を説明するとともに会費納入を依頼することが確認された。

(3) 「復興農学会誌」投稿時のフォームの整理について (杉野)

杉野 助教より、「復興農学会誌」に投稿する際に「送り状」のような諸情報の提出があった方がよいが未整備であるため編集委員会で検討することが報告された。

以上

今後の予定

- ・月例会 (第3回) 2023年8月7日 (月) 17時00分から
  - ・幹事会 (第5回) 2023年8月7日 (月) 18時00分から
  - ・月例会 (第4回) 2023年9月4日 (月) 17時00分から
  - ・幹事会 (第6回) 2023年9月4日 (月) 18時00分から
- (月例会は、毎月第1月曜日 17時00分から開催。  
幹事会は、毎月第1月曜日 18時00分から開催 (2023年9月まで))



## 「復興農学会」幹事会（第5回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2023年8月7日（月）18時00分～18時15分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 石井 秀樹（福島大学）、小倉 振一郎（東北大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、新田 洋司（福島大学）、登尾 浩助（明治大学）、横山 正（福島大学）

### 議事録

#### 1. 各大学等における会員の確認・入会の状況について（新田・佐伯）

新田より各大学等における会員の確認・入会の状況について報告があった。確認された会員数は以下のとおりであった。東京大学6名、東京農工大学：7名（確認中）、福島工業高等専門学校3名、東北大学1名、東京農業大学4名（確認中）、明治大学（卒業生含む）6名、福島大学29名、その他（幹事不在の大学等を含む）39名、計95名。日本学術会議協力学術研究団体への申請要件は100名以上であるが、新田より、学会として安定した会員数を有することを示すためにも120～130名以上が望ましい、については、各大学等にあってはさらに数名程度以上の入会の勧誘をお願いしたい旨の発言があった。

#### 2. 学会誌「復興農学会誌」の編集・発行状況について（横山）

横山 特任教授より復興農学会誌 第3巻第2号（79ページ）が7月31日に発行されたことが報告された。また、第4巻第1号（2024年1月発行予定）の編集状況について、現在、原著論文2報が審査中であることが報告された。幹事ならびに会員に原著論文等の記事の投稿が依頼された。

#### 3. その他

##### (1) 本学会の会計状況について（新田）

新田より、本学会の銀行口座（ゆうちょ銀行）の残高が80,888円（2023年8月5日現在）であること、本年度の大きな支出の1つである日本農学会分担金等（46,050円）は4月25日に支払いが完了していること等が報告された。

##### (2) その他

なし

以上

### 今後の予定

・月例会（第4回） 2023年9月4日（月）17時00分から

・幹事会（第6回） 2023年9月4日（月）18時00分から

（月例会は、毎月第1月曜日17時00分から開催。

幹事会は、毎月第1月曜日18時00分から開催（2023年9月まで）

## 「復興農学会」幹事会（第6回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2023年9月4日（月）18時00分～18時40分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 内田 修司（福島工業高等専門学校）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（東京大学）、新田 洋司（福島大学）、溝口 勝（東京大学）、安達 俊輔（東京農業大学）  
（敬称略）

### 議事録

#### 1. 日本農学アカデミー・公益財団法人農学会主催シンポジウムの後援について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、日本農学アカデミー・公益財団法人農学会が主催するシンポジウム（下記）に、本学会に後援（費用負担なし）の依頼が届いていることが照会された。審議の結果、後援とすることに決定し、新田より日本農学アカデミーの生源寺 会長に連絡することとなった。

日時：2023年11月11日（土）午後

場所：東京大学弥生講堂（ハイブリッド方式）

題目：東日本大震災がもたらした食料問題－福島県の現状と課題

生源寺 眞一 前会長・福島大学客員教授ほか、本学会関係者らが報告。

#### 2. 各大学等における会員の確認・入会の状況について（新田・佐伯）

佐伯 研究員、新田より各大学等における会員の確認・入会状況について報告があった。会員数は現時点で99名前後であるが、引き続き各大学等において確認・勧誘をして、会員数を拡大することが確認された。

#### 3. 学会誌「復興農学会誌」の編集・発行状況について（杉野・安達）

安達 准教授より、復興農学会誌第3巻第2号が7月に発行されたこと、J-STAGEにもアップされたことが報告された。杉野 助教より、第4巻第1号の編集状況について、現在、原著論文2本が審査中であること等が報告された。

#### 4. その他

##### (1) 10月以降の幹事会、月例会の開催について（新田）

新田より、10月以降の幹事会ならびに月例会の開催日時等について確認が必要であることが報告された。審議の結果、幹事会は原則偶数月に開催すること、月例会は毎月開催すること、幹事会は月例会終了後につづけて開催することが了承された。また、10月以降の都合を「伝助」で調査して開催日を決定することもあわせて了承された。

##### (2) 学会ホームページ関係について（佐伯）

佐伯 研究員より、学会ホームページで会費の納入先等の情報がわかりづらいため整備してはどうかとの提案があった。審議の結果、当該ページを整備することとし、佐伯 研究員、福島大学の事務局内で対応することとなった。

また、佐伯 研究員より、福島イノベーション・コースト構想推進機構の担当者より、同機構のホームページに復興農学会のホームページへのリンクを張ってよいかとの問い合わせがあったことが報告された。幹事会としてはとくに問題はないことが確認された。なお、同機構からは電話による個人への問い合わせではなく、学会事務局への問い合わせがのぞましいとの意見があった。

(3) その他

福島国際研究教育機構による農林水産研究の委託事業の公募状況と採択等について情報交換があった。

以上

今後の予定

- ・月例会（第5回）           2023年10月（日時未定）
- ・幹事会（第7回）           2023年10月（日時未定）

「復興農学会」幹事会（第7回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2023年10月3日（火）18時00分～18時30分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 石井 秀樹（福島大学）、内田 修司（福島工業高等専門学校）、大川 泰一郎（東京農工大学）、小倉 振一郎（東北大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（山口大学）、新田 洋司（福島大学）、溝口 勝（東京大学）  
（敬称略）

会議に先立って、杉野 弘明 講師より、10月1日付けで山口大学国際総合科学部に着任したとのあいさつがあった。

議事録

1. 各大学等における会員の確認・入会の状況について（新田・佐伯）

新田、佐伯 研究員より、各大学等における会員状況等について報告があった。入会が確認された会員、会費を納入した会員は101名（2023年9月25日現在）であることが報告された。具体的には下記のとおりであった。

なおも会員数を増やす必要があり、日本学術会議に協力学術研究団体として登録するためにもおよそ120名程度の会員数が必要との意見がだされた。

会員数を増加させるためには新規会員の勧誘・案内が必要であり、そのためにはビラやポスターが必要との意見があった。福島大学の事務局でビラ、ポスターを作成することとなった。また、9月の幹事会で学会ホームページで会費払い込み方法が不明であることから修繕することが確認されていたが、福島大学の事務局の作業が遅れており、取り急ぎ取りかかることが確認された。

会員数（2023年9月25日現在）	
	計101名
東京大学	6名
東京農工大学	11名
福島工業高等専門学校	3名
東北大学	4名
東京農業大学	4名
明治大学	7名
福島大学	29名
その他	37名

2. 学会誌「復興農学会誌」の編集・発行状況について（杉野）

杉野 講師より、7月末に第3巻第2号が発行され、J-STAGEにも掲載されていることが報告された。

また、第4巻第1号（2024年1月発行予定）の編集状況について、現在、原著論文2報の審査が進んでいるが、さらに原著論文、記事がほしいことが報告された。幹事会メンバーが投稿をはたらきかけることとなった。

さらに、杉野 講師より、「投稿フォーム」が未整備であり、今後、Web上に整備すること、掲載論文等の魅力を引きつける企画などについても検討することが報告された。

3. 日本農学アカデミー等主催シンポジウムについて（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、本学会が後援する日本農学アカデミー等主催のシンポジウムの開催について下記のとおり説明があった。あわせて、多数の学会員等が参加するよう案内があった。

日時：2023年11月11日（土）午後

場所：東京大学弥生講堂（ハイブリッド方式）

題目：東日本大震災がもたらした食料問題－福島県の現状と課題

生源寺 眞一 前会長・福島大学客員教授ほか、本学会関係者らが報告。

#### 4. その他

(1) 10月以降の幹事会、月例会の開催について（新田）

新田より、10月以降の幹事会ならびに月例会の開催日時が下記のように決定したとの報告があった。

- ・月例会：毎月第1火曜日17時00分から開催
- ・幹事会：偶数月第1火曜日18時00分から、月例会終了後につづけて開催

(2) その他

なし

以上

#### 今後の予定

- ・月例会（第6回） 2023年11月7日（火）17時00分から
  - ・月例会（第7回） 2023年12月5日（火）17時00分から
  - ・幹事会（第8回） 2023年12月5日（火）18時00分から
- （月例会：毎月第1火曜日17時00分から開催。幹事会：偶数月第1火曜日18時00分から開催）

「復興農学会」幹事会（第8回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2023年12月5日（火）18時00分～18時25分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 石井 秀樹（福島大学）、内田 修司（福島工業高等専門学校）、大川 泰一郎（東京農工大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（山口大学）、新田 洋司（福島大学）、溝口 勝（東京大学）  
（敬称略）

議事録

1. 各大学等における会員の確認・入会の状況について（新田）

新田より会員の確認・入会状況が報告された（下表）。日本学術会議に協力学術研究団体として登録する要件は100名以上（研究者が半数以上）でありその数は満たしているが、十分な数（120名程度以上）が欲しいこと、については各大学等においてさらなる会員の入会を依頼したいことが報告された。

会員数（2023年12月5日現在）
東京大学：5名
東京農工大学：11名
福島工業高等専門学校：3名
東北大学：4名
東京農業大学：4名
明治大学：7名
山口大学：1名
福島大学：30名
その他（幹事不在の大学等）：38名
計：103名

2. 本年度の研究会・総会の開催について（新田）

新田より、本年度の研究会・総会の開催について幹事による事前の調査の結果、2024年3月9日（土）が候補となることが報告された。開催場所については審議の結果、福島大学とし、リモートを併用して開催することとなった。また、シンポジウム、エクスカージョンの実施については、企画担当幹事（石井、内田、黒瀧、登尾（敬称略））を中心に検討することとなった。

2023年度研究会・総会
日時：2024年3月9日（土）
場所：福島大学・リモート併用
シンポジウム：検討（企画担当幹事）
エクスカージョン：検討（企画担当幹事）

3. 学会誌「復興農学会誌」の編集・発行状況について（杉野）

杉野 講師より、「復興農学会誌」の編集状況について、原著論文1報が新たに投稿され審査されていることが報告された。

また、「投稿フォーム」（案）（Google フォーム利用）が作られ、編集委員会で試用されていることが報告された。「投稿フォーム」（案）については、幹事会メンバーも試用し、意見等を杉野 講師、編集委員会に報告することとなった。

4. 2024年度日本農学会シンポジウムへの話題提供について（新田）【資料】

新田より、2024年度日本農学会で開催されるシンポジウムの話題提供について、提供者・内容の提出期限が過ぎているが提出するかどうかについて照会があった。審議の結果、今回は話題提供を見送ること

なった。

2024 年度日本農学会シンポジウム
・ 話題提供締め切り：12 月 1 日（金）
・ テーマ：「日本の農学の国際貢献」（仮）
・ 開催日時：2024 年 10 月 5 日（土）午前 10 時より（予定）
・ 会場：東京大学弥生講堂・オンライン配信（ハイブリッド開催）
・ 参加対象：一般、学生・大学院生、若手研究者等

## 5. その他

### (1) 日本農学会加盟学協会調査について（新田）【資料】

新田より資料にもとづいて、日本農学会加盟学協会調査を提出したことが報告された。

### (2) 本学会名・「復興農学会誌」名の英語表記変更についての会員への意見聴取について（新田）

新田より、去る 7 月 2 日（月）に開催された幹事会で、本学会名ならびに「復興農学会誌」名の英語表記を変更することが了承されたこと（下記）、本件は総会で審議され了承される必要があるが、次回の「復興農学会誌」発行に間にあわせたいため、12 月中に会員にメールで審議することになっていたことが報告された。以上の点が確認され、会員にメール等で審議を依頼することとなった。

#### ・ 学会名

現在 Society of Reconstruction Agriculture

変更案 Society of Resilience Agriculture

#### ・ 「復興農学会誌」名

現在 Journal of Reconstruction Agriculture and Sciences

変更案 Journal of Resilience Agriculture and Sciences

以上

## 今後の予定

- ・ 月例会（第 8 回） 2024 年 1 月 9 日（火）17 時 00 分から
- ・ 月例会（第 9 回） 2024 年 2 月 6 日（火）17 時 00 分から
- ・ 幹事会（第 9 回） 2024 年 2 月 6 日（火）18 時 00 分から

（月例会：毎月第 1 火曜日 17 時 00 分から開催。幹事会：偶数月第 1 火曜日 18 時 00 分から開催）

## 「復興農学会」幹事会（第9回）議事録

文責 新田 洋司（福島大学）

日時 2024年2月6日（火）18時00分～18時40分

方法 ZoomによるWeb会議

出席者 石井 秀樹（福島大学）、内田 修司（福島工業高等専門学校）、小倉 振一郎（東北大学）、黒瀧 秀久（東京農業大学）、佐伯 爽（福島大学）、杉野 弘明（山口大学）、新田 洋司（福島大学）、登尾 浩助（明治大学）、溝口 勝（東京大学）  
（敬称略）

### 議事録

#### 1. 各大学等における会員の確認・入会の状況について（新田・佐伯）

新田、佐伯 研究員より各大学等における会員の確認・入会状況について報告があった。あわせて、2月6日に新規の入会者があったことも報告された。なお、各大学等で入会等の勧誘・確認をすることとなった。

会員数（2023年12月5日現在）
東京大学：5名
東京農工大学：11名
福島工業高等専門学校：3名
東北大学：4名
東京農業大学：4名
明治大学：7名
山口大学：1名
福島大学：30名
その他（幹事不在の大学等）：38名
計：103名

#### 2. 本年度の研究会・総会の開催について（新田・石井）

本年度の研究会・総会の開催について、新田、石井 准教授より以下のとおり報告があった。なお、シンポジウム、エクスカージョンの情報についても学会ホームページに公開し広報することが確認された。

なお、総会資料は福島大学内の事務局で作成後、幹事会メンバーにメールで送り、事前に確認することとなった。

1. 研究会・総会
日時 2024年3月16日（土）9時00分～17時00分（予定）
場所 福島大学・Zoomによるリモート併用
内容
(1) 研究発表
・発表形態 口頭
・時間 発表12分、質疑3分
・方法 パワーポイントスライド等を利用し、発表者が各自のパソコンを接続して発表。
・発表申込 2月24日（土）までに、下記により申し込む。
Google フォーム <a href="https://forms.gle/B44JCZ1rDvmDchzv9">https://forms.gle/B44JCZ1rDvmDchzv9</a>
・参加費 2,500円（税込み）
(2) シンポジウム
・時間 13時30分～15時30分（予定）
・テーマ 持続的な地域づくりのなかでの復興
・話題提供者 林 直樹 氏（金沢大学准教授）
・オーガナイザー 溝口 勝 氏（復興農学会会長・東京大学教授）
(3) 総会 15時30分～17時00分（予定）
2. エクスカージョン



日時	2024年3月17日(日) 8時00分~18時00分ごろ(予定)
行程	(8時00分) 福島市内発 → 相馬市内 → (16時30分ごろ) JR相馬駅(解散) → JR福島駅
見学地	直売所(相馬市)、太陽光発電施設(南相馬市)、他(予定)

### 3. 学会誌「復興農学会誌」の編集・発行状況について(杉野)

杉野 講師より復興農学会誌第4巻第1号が1月末に発行されたこと、当該号では原著論文が3報、ニュースが1報掲載されており、充実した内容となっていることが紹介された。

また、現在、第4巻第2号の編集が進んでいること、原著論文原稿が投稿されていることも報告された。

### 4. 来年度からの編集委員会体制について(新田)

来年度からの編集委員会体制について新田、溝口 会長より照会があり、審議の結果、下記の委員会メンバーが了承された。

委員長	内田 修司 教授(福島工業高等専門学校)
副委員長	杉野 弘明 講師(山口大学)
委員	安達 俊輔 准教授(東京農工大学)

### 5. その他

#### (1) 福島イノベーション・コースト構想推進機構よりの依頼について(佐伯)

佐伯 研究員より、福島イノベーション・コースト構想推進機構より、現在、同機構が作成中の「中間成果報告書」に、「採択大学等による連携した取組み」として「復興農学会」についての執筆依頼が届いていることが報告された。審議の結果、復興農学会として執筆し提出することとなった。

#### (2) その他

新田より、2月10日(土)に日本農学会総会・日本農学賞選考委員会が開催されるが、本学会から溝口 会長が出席することが報告された。

以上

### 今後の予定

- ・月例会(第10回) 2024年3月5日(火) 17時00分から
  - ・月例会(第11回) 2024年4月2日(火) 17時00分から
  - ・幹事会(第10回) 2024年4月2日(火) 18時00分から
- (月例会:毎月第1火曜日 17時00分から開催。幹事会:偶数月第1火曜日 18時00分から開催)